



岩手県釜石市に設置された碑を見つめ、思いをはせる小林市長



石巻市の仮設住宅で住民と話す小林市長



市が支援した遊具で遊ぶ釜石小学校の子どもたち

被災地に届けた

元気

東日本大震災の発生から間もなく2年半。その間、市では職員派遣や物資の供給、基金の活用など、さまざまな被災地支援を実施してきた。小林市長も7月4日から2日間、復興状況を確認しようとして被災地を訪問。現地の人々から直接話を聞いた(詳細は4・5面)。

一方で、市民の皆さんも心温まる活動を展開。ボランティア活動や被災地との交流など、支援はいろいろな形で現地に届いている。「太鼓で元気を届けたい」。ことし結成36年を迎える市の伝統芸能「白龍太鼓」のメンバーもこの夏、ボランティアで被災地を訪れた。7月31日から3日間、宮城県石巻市や南三陸町の商店街など5カ所で熱演を繰り広げた。

白龍太鼓にとって初めて訪れた土地だったが、活気あふれる太鼓の響きに、会場は大きな歓声に包まれた。「迫力ある太鼓で元気に



太鼓を通じて被災地の人と交流した

なった「演奏者の笑顔が素敵だった」「一緒に楽しめた」。被災地で暮らす人々は、笑顔で拍手した。

白龍太鼓のメンバーたちが打ち鳴らす力強い太鼓の音は、多くの人に感動を与えている。そこには、数々の経験の中で培ってきた、太鼓に対する強い思いが込められているからだ。

《2・3面に続く》



石巻立町復興ふれあい商店街で演奏する白龍太鼓のメンバー

目次	2・3面 継承するのは伝統と心	4・5面 復興への願いを込めて	6~9面 真っすぐに前を向いて	10・11面 タウンガイド
	白龍太鼓が長い歴史の中で培ってきた伝統への思いと、被災地支援を通じて成長していく姿を紹介します。	さまざまな方法で実施してきた被災地への支援。これまでの支援内容とその成果をまとめて紹介します。	障がい者スポーツに打ち込む2人の市民の姿や仲間との絆から、障がい者と健常者の関わり方を考えます。	催し・講座・子育て・募集・お知らせなど、暮らしに役立つ便利な情報が満載。

こちらから

継承するのは伝統と心



白龍太鼓は昭和51年、飯山温泉郷の旅館のあるじたちによって始められた。一時は公演を開けないほどにまで会員が減少し、存続が危ぶまれた時期もあったが、平成元年に子ども太鼓連が結成され、相模国飯山白龍太鼓保存会の体制が整った。当時の小学生たちが、今の保存会の活動をけん引している。地域の伝統を受け継ぐ若き伝承者たちの活動を追った。

白龍太鼓の起源

起源は、地域に古くから伝わる雨乞いの行事によるもの。その昔、日照り続きに困った農民が太鼓を打ち鳴らし、白山（はくさん）に住む白龍の水飲み場「白山池」の水をくみ上げると、白龍が怒って相模平野に雨を降らせ、地域に豊作をもたらした—という物語を基に作られている。曲目では、雨乞いをする村人の様子や天を駆け巡る白龍の様子が巧みに表現されている。

保存会の会員数は現在37人。飯山小学校区の小中学生からなる子ども連17人と、高校生以上の大人連20人で構成されている。社会人は仕事の傍らで活動し、市の行事や地域の祭りなど、年間約30公演の活動を展開している。

「伝統は、これまでの歴史の積み重ねによって支えられている。歴代の人々の努力を忘れてはいけない」。そう話すのは、白龍太鼓で顧問を務める井川明さん（30）。一つ一つの経験の大切さを、次の世代に伝えている。小学生の時から白龍太鼓を続けてきた井川さんは、平成19年から6年間、会長として精力的に活動してきた。そこで培った経験も、白龍太鼓の伝統の1ページに刻まれている。

初めての大舞台

平成22年の春、メンバーは2年後に迎える結成35周年の記念に、自主公演を開催しようとした。会場の候補として、1400人が入れる文化会館大ホールが挙げられた。それまで地域の祭りなどを主体に活動していた白龍太鼓。大きな舞台で自主公演を開いた経験はなかった。「お客さんは来てくれるだろうか」と、不安を抱くメンバーも多かった。

突如襲った病魔

「練習でも、連絡なく休んだことなんてなかった」。そう話すのは副会長の石川知宏さん（30）。「連絡が取れない。どうしたんだろう」。心配する石川さんに、井川さんの父親から一本の電話が入った。倒れた原因は、くも膜下出血。生死に関わる病に、石川さんは言葉を失った。

井川さんと幼なじみだった石川さんは、井川さんの気持ちに誰よりも考えた。「くよくよしてられない」。石川さんはメンバーに事情を説明し、代わってメンバーを率いた。

誇れる仲間たち

井川さんは、奇跡的に一命を取り留めた。だが、目前に迫った記念公演への出演は絶望的だった。「悔しくて仕方がなかった」と、井川さんは当時の心境を打ち明ける。入院中もベッドの中で体をたたき、太鼓のリズムを刻む日々を送った。

そんな姿を目の当たりにした石川さん。「何としても記念公演を成功させなければ」と、準備や太鼓練習、子どもたちの指導



指導に熱が入る石川さん

震災直後から「白龍太鼓で元気を届けられないか」と考えていたメンバーたち。厚木市が石巻市に支援していることなどから調整が付き、被災地への訪問が決まった。地域の人たちもボランティアで協力してくれることになった。「白龍太鼓は周囲の人々に支えられている」と、メンバーたちは口をそろえる。「ただ行くだけでは意味がない。しっかりと考えてから行くこと、大きな成果が得られる」。そう考えたメンバーたちは、被災地での公演に向けて勉強会を開いた。勉強会では、被災地の状況などが説明されたほ

被災地への思い

や観客集めなどに明け暮れた。迎えた公演当日、客席は満員の観客で埋め尽くされた。記念公演は大成りに終わった。メンバーたちの活躍を客席から見守っていた井川さん。「こんなに素晴らしいメンバーに囲まれていたんだ」と惜しめない拍手を送った。「自分もその一員であることが誇りしかった」と、今でも当時の気持ちを忘れない。



大盛況のうちに終わった35周年記念公演



①



②



③



④



⑤



⑥



⑦



⑧



⑨



⑩

①南三陸町の仮設商店街で演奏するメンバーたち②雄勝中学校の生徒との交流では、お互いの太鼓のたたき方を教え合った③ベニヤ製の復興輪太鼓の台には、「生」という文字がデザインされている④「しの笛」で奏でるメロディーは、白龍太鼓の演奏に彩りを添える⑤金属製の「かね」で、高音のリズムを刻む⑥「ちゃっば」と呼ばれる打楽器を鳴らし、面をかぶって会場を盛り上げる⑦演奏終了後は、惜しめない拍手と歓声に包まれた⑧ソロで演奏する「乱れ打ち」は、白龍太鼓最大の見せ場⑨各公演会場で太鼓体験を実施し、観客との交流を深めた⑩観客の近くで「担ぎおけ太鼓」を打つ井川さん

心に響く音

か、復興支援ボランティアで活動した体験者の話も聞いた。「子どもたちの姿勢が変わった」と感じた井川さん。「被災地への訪問は、白龍太鼓にとっても得られるものがあるはずだ」と確信していた。メンバーそれぞれが「何ができるか」を考え、被災地へと向かった。

被災地でメンバーたちは、石巻市立雄勝中学校にも訪れた。雄勝中には、生徒たちが継承してきた「伊達の黒船太鼓」があったが、津波でまちは崩壊。和太鼓も全て流されてしまった。しかし、生徒たちは廃タイヤを使って太鼓を制作。復興を誓って「復興輪太鼓」を完成させた。復興輪太鼓を聞いた白龍太鼓のメンバーたちは「太鼓の音が心に響く」と感じた。演奏後は、太鼓のたたき方の違いなどで会話が弾み、時間を忘れて交流を深めた。

白龍太鼓のバスを走って追いかけた。それに応えて手を振る白龍太鼓のメンバーたち。それぞれの太鼓に対する強い思いが、互いの心を引き寄せていた。

変わっていく意識

被災地での公演を重ねるに連れ、メンバーたちは、さまざまな思いを募らせていった。「雄勝中で道具を大切にしている気持ちや学んだ」「お客さんの喜んでくれる顔が本当にうれしかった」「自分たちの思いを受け止めてもらえて良かった」。こうした意識は、太鼓の演奏にも確実に表れていた。

現在会長を務める丹羽結希さん(25)は「初めて訪れた土地でも、強い気持ちを持って太鼓をたたけば、お客さんは笑顔と拍手で迎え入れてくれる」と感じていた。「白龍太鼓は、長い歴史の中でたくさんを経験している。そこで培ってきた熱い思いを伝えていきたい」。そう決意する丹羽さんにも、白龍太鼓の伝統と強い志がしっかりと

伝える太鼓へ



現在会長を務める丹羽さん

最終日の公演、メンバーたちはこれまで感じてきた気持ちを、精いっぱい太鼓で表現した。拍手や歓声に包まれながらの演奏だった。演奏後、多くの観客がメンバーの元に駆け寄った。「力強い演奏に奮い立った」「優しさと思いやりの気持ちが伝わり感動した」など、涙を流しながら感謝の気持ちを伝えていた。「白龍太鼓は見せる太鼓から、伝える太鼓へと成長しつつある」。井川さんは、そうほほ笑んだ。

被災地に思いを届け、多くのことを学んだメンバーたち。充実に満ちた顔に流れる汗と涙は、夏のまぶしい日差しに照らされて、きらきらと輝いていた。

白龍太鼓の活動を映像で紹介

「心に響け！ 幸せを呼ぶ太鼓」

《放送日》9月1日～15日

白龍太鼓は、かつて豊作をもたらしたことから「幸せを呼ぶ太鼓」ともいわれています。被災地に届けたメンバーたちの思いと、それを通じて大きく成長していく姿を紹介します。

時間などの詳細は、10面の番組ガイドをご覧ください

あつぎ 元気Wave CATV 9/1～放送



みんなの力で被災地支援

復興への願いを込めて

東日本大震災の被災地支援は、人や物資、義援金などその時々要望に合わせて実施されてきました。復興への願いを込めて続けられたさまざまな活動。東日本大震災支援基金の廃止を機に、あらためてこれまでの支援とその成果を紹介します。 ☎危機管理課 ☎225局2193



義援金基金

平成23年3月14日から本厚木駅前などで義援金の募金活動を開始しました。同年6月に市は、必要な物資などを支援するため「東日本大震災支援基金」を設置。石巻市、釜石市、大船渡市を支援してきました。義援金は現在も受け付けています（申し込みは福祉総務課 ☎225局2200へ）。

東日本大震災義援金 **1億1961万2519円**

※8月16日現在。日本赤十字社、共同募金会の合計額。

東日本大震災支援基金 **3428万8658円**

※基金運用利子4190円を含む。基金は平成25年6月に廃止。

石巻市

テント5張り、公用車1台、収集用ごみ箱50個、ストーブ12台、発電機67台、投光器67基、毛布750枚、大型エンジンポンプ4台、移動式かまど4台

釜石市

テント5張り、収集用ごみ箱50個、ストーブ12台、発電機付き投光器2基、街路灯62台、ソーラーライト60台、折り畳みいす75脚、丸テーブル20卓、折り畳みいす収納台2台、ワンタッチテント4張り、発電機1台、4連式ブランコ（保護柵付き）一式、山型雲てい一式（1面に写真掲載）、スコットボールセット3組、簡易印刷機1台、自動体外式除細動器5台、脚折り畳み式机10卓、積雪型物置1台

東日本大震災支援基金を使った支援

大船渡市

テント5張り、公用車1台、収集用ごみ箱50個、ストーブ12台、市内企業から提供された自動車1台、発電機付き投光器2基、催事用テント2張り、ソフトテニスコート用具一式、周囲防球ネット一式、乗用芝刈り機1台、歩行芝刈り機1台、グラウンド整備用肥料散布機1台、ポンプなど散水器具一式

心温まる交流

市立相川小学校⇄石巻市の相川小学校

同じ名前の学校を支援しようと、児童の発案で交流が始まりました。子どもたちは、石巻市の児童と作詞した合唱曲「フレンズ・オブ・アイカワ」を録音して贈りました。歌は厚木市の相川小の第2校歌として、児童たちに親しまれています。



市少年野球協会⇄多賀城市少年野球協会

多くの野球用具が流されたことを知った厚木市少年野球協会がバットやグローブ、ボールなどを寄付。「あつぎ鮎まつり」に合わせて市内にも招待し、交流試合を実施しました。ことしの夏も厚木市を訪れるなど、交流が続いています。



被災した宅地の危険度判定をするため、被災宅地危険度判定士を6人、避難所生活を強いられる方の心のケアをするため、保健師を4人派遣しました。この他、避難所支援や行政事務支援で24人を派遣。物資運搬や現地調査などを含め、これまでに156人が被災地で活動しています。

《専門職》

緊急消防援助隊消防隊（隊員21人）
緊急消防援助隊救急隊（隊員25人）

《市職員》

平成23年6月～7月、市が募集した市民ボランティア計103人が大船渡市へ。被災した家屋の片付けや道路の側溝の泥上げなどに従事しました。市社会福祉協議会の「ボランティア活動保険」に加入して被災地に行った人は、これまで1755人に上ります。

◆ボランティア

震災当日に出発した消防隊以降、市職員や民間企業、学生、ボランティアの皆さんなど、多くの人が被災地で活動しました。支援をきっかけに、今なお交流が続いている人たちもいます。少しでも復興の力になればと、皆強い思いで活動に当たりました。



市民ボランティアには定員を超える応募があった。参加者は被災した工場などで作業に当たった（平成23年6月）



神奈川県厚木市民のみなさま

大船渡中学校女子テニス部

整備されたテニスコートを使う生徒たちからの寄せ書き



支援物資の机をトラックに積み込む玉川中の生徒たち(平成23年6月)

物資

震災直後、市民の皆さんから頂いた物資や市が備蓄していた食料品、学校の備品などを被災地（岩手県釜石市・大船渡市、宮城県石巻市・登米市、茨城県水戸市・那珂市など）へ提供しました。東日本大震災支援基金を使った支援と合わせ、被災地からは感謝の声が届いています。



「住民の安心感につながっている」

石巻市 危機対策課長 二上洋介さん (54)

震災の経験から、災害時に役立つ物資の支援をお願いしました。厚木市から届けられた大型エンジンポンプは、既に何度も活躍しています。台風や大雨の時、ポンプを使って浸水した場所の水を取り除いています。

避難所では、多くの人が電気のない暗い生活を経験しました。発電機や投光器などの物資は、住民の皆さんの安心感につながっています。

遠くの地からの支援は、「守られている」「助けられている」という実感を私たちに与えてくれます。復興に向け課題はたくさんありますが、皆さんの支援を生かして全力で進めていきます。

皆さんから寄せられた主な支援物資

平成23年3月21日～31日(総合福祉センターと地区市民センターで受け付け)

【個人】

食品(カップ麺など)405個、缶詰195個、紙おむつ(乳児用)・お尻拭き1069袋、紙おむつ(大人用)・尿漏れパット811袋、マスク2547箱、衣服17250着、防寒着1698着、下着11164着、靴下9818足、毛布116枚、タオル15647個、手指消毒液135個、歯ブラシ・歯磨き粉4663個、シャンプー類204個、洗剤1091個、ラップ846個、割り箸10337個、トイレトーパー4047個、乾電池411パック、長靴・靴92足、エコバッグ1070個、ろうそく24箱、石油ストーブ(反射式)5台、使い捨てカイロ128パック、粉ミルク104個、絵本3箱、水36箱、紙皿25パック、軍手260パック、ひげそり600個、マッチ2500箱、せっけん100箱、綿棒30パックなど

【事業所】

カセットコンロ1000台、ボンベ3024本、毛布50枚、アルファ化米700食、水2741本、ビスケット72食、カップ麺1176食、梅干し3000粒、ツナの缶詰960個、お菓子43箱、お茶缶26400本、パンの缶詰288箱、ドライフーズ16箱、作業着1000着、ダンボール160枚など



生活に必要な物資が寄せられた



石巻市の亀山 紘 市長に目録を手渡す



仮設住宅など、被災地の現状を確認した

被災地を訪ねて

震災を忘れず、常に災害への危機感を

厚木市長 小林 常良

7月4・5日、石巻、釜石、大船渡の3市を訪問しました。目的は、これまでにも多くの皆さんから寄せられた寄付金により実施した支援の成果や、被災地の復興状況を確認するためです。

現地は、がれきこそ片付けられていたましたが、津波で家が流された場所には草が生い茂っていました。仮設住宅で暮らす人々の住宅再建も、思うように進んでいませんでした。

訪問先では、復興に向けて懸命に努力している関係者や、仮設住宅での厳しい生活の中でも笑顔あふれる主婦の皆さんなどとお会いしました。復興の大変さを目の当たりにし、多くの人が前向きに取り組んでいる姿に強く心を打たれました。

厚木市では震災後の6月、復興支援を本格化するため基金条例を制定しました。市民の皆さんから寄せられた寄付金は、被災地が必要としている物資に換えてお届けしていただきます。支援の現場も見させていただけ、厚木市民の被災地へ

の思いは確実に生かされていることを実感しました。訪問先の市長からは「厚木市民の皆さまの支援のおかげで、復興が進んでいます」と感謝の言葉を頂きました。寄付金をお寄せいただいた市民、企業、団体の皆さんに、心からお礼を申し上げます。

基金による支援は一区切りとなりますが、被災地の復興には長い道のりが残されています。私たちに求められているのは、3・11の大震災とその被災地のことを忘れてはならないこと。そして、これからも被災地の復興に必要な支援を続けていくことです。

今回の訪問で、自分たちの身は自分たちで守る「自助」、隣近所の人たちと助け合う「共助」、救助が来るまでの「備え」の大切さをあらためて学びました。被害を最小限に抑えるためには、「大きな地震は来る」という危機感を持ち続けることが必要です。私も被災地で見聞きしたことを、災害対策に生かしていきたいと思えます。



失望の中の出会い
清水さんが生涯にわたるハンディキャップを背負ったのは33歳の時。仕事中に鉄骨の下敷きになり、大けがを負った。「搬送された病院で下半身に触れたが、全く感覚がなかった」。事故で気が動転する中、二度と立ち上がれなくなる恐怖が追い打ちを掛けた。手術後、医師

車いすテニスのパイオニア
車いすテニスは、パラリンピックの種目にも採用されている障がい者スポーツの一つ。2回のパウンドまで返球が認められる以外、ルールはテニスと変わらない。健常者と共にプレーする種目もあり、国内外で大小さまざまな大会が開かれている。清水さんは30年以上のキャリアがある、車いすテニスの草分け的な存在。かつては国内の主要大会を転戦し、国内ランキング最高19位の実績を持つ。現在は市内で唯一、公式大会に出場しているプレーヤーだ。

「テニスくれた充実の日々」
「清水さんはとにかく一生懸命プレーする人。初めはラケットにボールを当てるのが精一杯だったけど」。当時七沢リハビリテーション病院の職員として、清水さんにテニスを教えた高垣茂子さん(57・水引)は振り返る。清水さんは「あのころは木製のラケットで、車いすもスポーツ用ではなかった。それでも仲間と体を動かす喜びを心から味

「伝統の大会で輝く」
毎年8月、厚木市では「日本車いすテニス選手権大会」が開かれる。全国規模の大会としては国内で初めて開催され、ことし30回目を迎えた歴史ある大会だ。成績がランキングに影響するため、全国から名だたる選手が集まる。高垣さんと夫の勝勲(59・水引)さんら七沢リハビリテーション病院



①試合開始を前に記念撮影②大会最多出場の清水さんはスタッフともすっかり顔なじみ③必死の形相でボールを追う④試合には敗れたものの、猛暑の中最後まで諦めないプレーを見せた⑤地元の高校生などがボランティアで大会をサポート

心豊かに生きる

清水信正さん(68・三田)

むちのように右腕をしならせ、軽く投げ上げたボールをたく。車いすを巧みに操り、ゆったりとした動きから強いインパクトでサーブを繰り出していく。セミの声が鳴り響く、県立七沢リハビリテーション病院のテニスコート。清水さんは流れる汗を拭いながら、一人黙々とラケットを振り回っていた。

「脊髄損傷による両下肢まひ」と告げられた。今後の生活や妻と幼い一人娘のことを思うと打ちのめされた。ふさぎ込む清水さんを支えたのは妻のミチ子さん(67)だった。「ショックを受けていただろうに、妻は以前のように笑顔で明るく接してくれた」。ミチ子さんの看護を受けながら、清水さんは次第に現実と未来を見つめ始めた。そんな中で出会ったのが車いすテニスだった。

「テニスくれた充実の日々」
「清水さんはとにかく一生懸命プレーする人。初めはラケットにボールを当てるのが精一杯だったけど」。当時七沢リハビリテーション病院の職員として、清水さんにテニスを教えた高垣茂子さん(57・水引)は振り返る。清水さんは「あのころは木製のラケットで、車いすもスポーツ用ではなかった。それでも仲間と体を動かす喜びを心から味



練習の合間にテニス仲間と会話を楽しむ

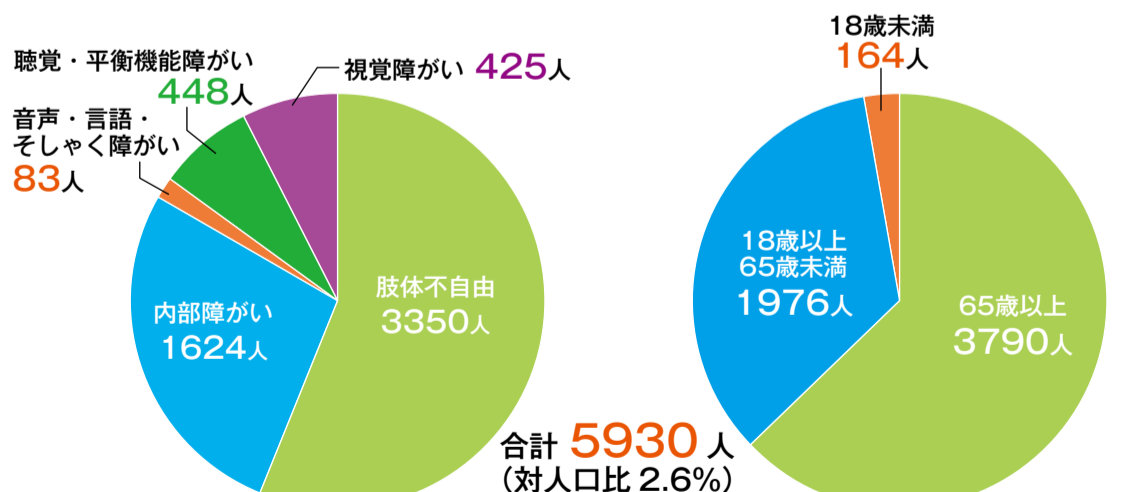
もしも生まれつき目が見えなかったら、不慮の事故で車いすでの生活を余儀なくされたら、あなたはどんな毎日を送っているだろうか。特集では、障がいがありながらもひたむきにスポーツに打ち込む2人の市民にスポットを当てた。2人の日常の姿から前を向く大切さを学び、2人に寄り添う家族や仲間との絆から、障がい者と健常者の関わりについて考えたい。



真っすぐに前を向いて



市内の身体障がい者の状況



※平成25年4月1日現在の身体障害者手帳所持者の統計数値。合計人数は他の障がいとの重複を含む。
身体障害者手帳…対象は①視覚障がい②聴覚・平衡機能障がい③音声・言語・そしゃく障がい④内部障がい⑤肢体不自由の5種。程度により1級～6級に分かれる。

※「障害」の表記…固有名詞や人の状態を表さない場合を除き「障がい」と表記しています。

厚木市は車いすテニス大会発祥の地

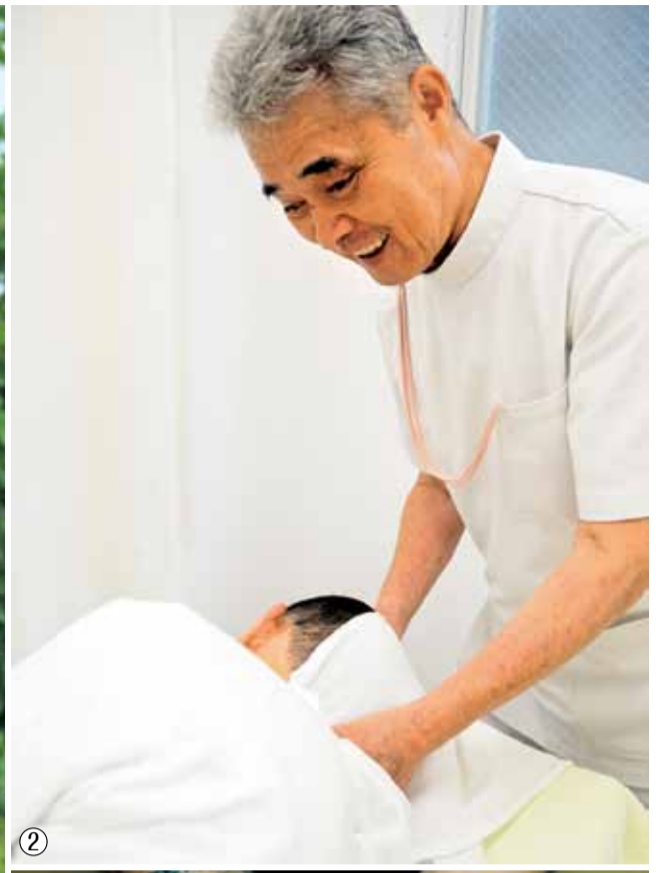
高垣茂子さん
全国に誇れる手作りの大会

県立七沢リハビリテーション病院では、リハビリプログラムとして昭和57年に車いすテニスを導入しました。ルールを一から調べながら基礎的な技術を教えていました。国内初の全国大会を厚木市で開こうと、病院職員が中心となり、会場の確保や資金・ボランティア集めに駆け回りました。準備を始めて1年、多くの支援を得て、59年に日本初の全国大会を開催できたことをとても誇りに思っています。

高垣勝勲さん
伝統ある大会をいつまでも

日本車いすテニス選手権大会の開催に当たり、事務局や審判を担当しました。今もアシスタントディレクターとして大会に携わっています。30人足らずの参加者で始まった大会も、全国各地から選手が参加してくれる大きな大会になりました。国内初という意義深いこの大会を長く続け、リハビリ段階の選手からアスリートまで、さまざまな選手が出場できる大会にしていきたいと思っています。





走り続けて今がある

ひろせのぶお
廣瀬信雄さん (72・旭町)

①仲間と川沿いを走る廣瀬さん②患者さんには「廣瀬先生」と親しまれている③全国大会で手に入れた金メダル

日曜日、朝日が差し込む荻野運動公園に廣瀬信雄さんの姿があった。今日は20年ほど前から在籍するランニングクラブ「厚木荻野走友会」の練習日。気心の知れた仲間と汗を流すひときは、廣瀬さんにとって掛け替えのない時間となっている。

ベンチに腰掛けランニングシューズのひもを縛り、「視覚障害」と書かれた緑色のベストを身に着ける。「それじゃあ、行きましょうか」「絆」と呼ばれるロープを伴走者と共に握り、廣瀬さんは真夏の厚木路へと駆け出した。

挑戦のロケ

生まれつき視力が弱かった廣瀬さんは、40歳になってからランニングを始めた。「初めは健康のためだったけど、記録が伸びたり大会で上位に入ったりするうちに、のめり込んでしまつて」。50歳になるころには、ほとんどの視力を失ってしまった廣瀬さん。しかし、走る意欲が衰えることはなかった。伴走を付けて練習を続け、平成6年と10年には「全国障害者スポーツ大会」の5千メートル競走で優勝を果たすなど、輝かしい成績を残してきた。

「もういい歳だし、昔のように走れないね。でも、やめようと思ったことは一度もない」

年齢を重ね、大きな大会では活躍できなくなったが、完走を目標に年間6レースほどに出場している。毎週日曜日の練習では約10キロ走り、伴走者がいない平日は、自宅近くの階段を使ってトレーニングを続けている。

毎週のように荻野運動公園へ一人バスで向かう廣瀬さんを、妻のセツさんは本厚木駅のバス乗り場まで見送っている。「全く心配はしていませんよ」

廣瀬さんの体の一部として

「廣瀬さん左に曲がりますよ」「この先少し上っているから気を付けて」。現在廣瀬さんの伴走を務めているのは、厚木荻野走友会の大西誠さん(64・鳶尾)。廣瀬さんとパートナーを組んで12年になる。走っている時は、小さな起伏やカーブなどさまざまなことにも気を配り、絶えず廣瀬さんに声を掛ける。新緑や紅葉など、目に写る景色を伝えることも忘れない。

視覚障がい者の伴走は、「絆」と呼ばれるロープを互いに持つて行う。歩幅を合わせたり、人ごみでは体を寄せて衝突を防いだりと細やかな心配りが必要となる。大西さんは廣瀬さんが走りやすい伴走の方法を、共に練習を重ねる中で身に付けてきた。心掛けているのは「廣瀬さんの体の一部になる」とことだという。廣瀬さんは「大西さんの伴走は安心できる。毎週のように練習に付き合ってくれて、本当に優しい人」と信頼を寄せている。大西さんは「特別なことをしているという意識は全くないし、伴走を義務だと思ったこともありません。大好きなランニングを一緒に楽しんでるだけです」とほほ笑む。二人は今、10月の厚木マラソンを目標に練習を重ねている。

走ることから得たもの

廣瀬さんは週に4日、愛川町の整形外科でマッサージ師として働いている。視力を失ったころに36年間務めたクリーニング店を辞め、平塚盲学校に通い療師の国家資格を取った。今の職場で働き始めて18年。「走り続けてきたことで、健康にこの歳まで働けているし、たくさん良い出会いがあった」と廣瀬さんは目を細めた。

日曜日、朝の爽やかな空気に包まれた本厚木駅南口に廣瀬さんの姿があった。セツさんの右腕に手を掛け、軽やかな足取りで北口のバス乗り場へと向かう。「それじゃあ、行ってくるよ」。セツさんに見送られ、廣瀬さんは今日も一人バスへと乗り込んでいく。行き先には、仲間たちが待っている。



寄り添って歩く廣瀬さん夫婦

誰もが笑顔で暮らせるまちへ

障がいへの関心を高めよう

全ての人が生き生きと暮らせる地域社会は、誰もが望むまちの姿です。市では「障害者福祉計画」を策定し、障がい者福祉の充実に努めています。障がいへの関心を高め、みんなで支え合い安心して暮らせるまちにしていきたいでしょう。

市では平成10年に「障害者福祉計画」を策定し、障がいのある人にも優しいまちづくりを進めています。ことし3月には、4期目となる計画を策定。「ノーマライゼーションの実現（※1）」「リハビリテーションの推進（※2）」「自己決定の実現」の3つの理念に基づき、施策を展開しています。

障がいへの関心を高める

理念の一つでもあるノーマライゼーションは「誰もが社会の

中で普通の生活を送ることが当たり前」という、障がい者福祉の基本となる考え方です。理念の実現に向けた第一歩は、障がいへの関心を高めることです。計画でも、重点取り組みの一つに「障がいに対する理解促進」を掲げています。「障害者週間（12月3日～9日）」や「障害者雇用促進月間（9月）」には街頭キャンペーンなどを実施。相手を思いやる心の大切さなどを呼び掛けています。子どもたちに対しても、車い

すや視覚障がい者が使うつえの体験などを通して、障がいへの理解を深める取り組みを進めています。

社会参加の促進

障がい者が地域に出て活動することは、健康維持や生きがいを見つめる上でとても大切です。理念に掲げるリハビリテーションの推進や自己決定の実現に向けても欠かせない取り組みの一つです。

市では、障がい者が外に出て活動できるよう、移動手段となる自動車ガソリン購入券やタクシー券の交付などを実施。道路

や公共施設、公園などの段差を解消させるバリアフリー化にも取り組んでいます。

用語解説

この他、社会参加のきっかけをつくるため、図書館の点字・録音図書の実施やスポーツ、レクリエーションを楽しめる催しなども実施しています。

共に支え合う社会へ

市内には今、約8千人の障がいのある人が暮らしています。誰もが笑顔で暮らせることは、みんなの願いです。健常者も障がい者もお互いを理解し、よりよいまちにしていきたいでしょう。 閩障がい福祉課 ☎25局2221

大切なのは 関心と関わりを持つこと



神奈川工科大学教授 小川喜道さん

プロフィール：神奈川工科大学創造工学部ロボット・メカトロニクス学科教授。「市障害福祉に関する計画市民検討委員会」委員長。障がい者の生活を支援する機器や触って分かる文字・シンボルを開発・研究している。

障がい者にとっての住みやすさは、障がいの程度が前提となるのではなく周囲の人の意識や地域の環境で決まります。障がいは多様で、全てを知るのには難しいことです。それよりも、地域の子どもや高齢者と同じように障がい者に目を向け、生活の不便さなどを考えてほしい。その上でできることを手伝ったり、一緒に楽しんだりできればいいと思います。一方で障がい者は、積極的に外に出て多くの人と関わりを持ってほしい。外での活動が健常者の意識を変えていくことにもつながります。人との関わりから得られる充実感、健常者も障がい者も同じです。お互いにコミュニケーションを深め、障がいを意識しない関係を築けるのが理想的です。

厚木市 ~つなげよう ふれあいの心~ 障がい者体育大会



市では、障がい者の皆さんの体力増進と親睦を目的に体育大会を開催しています。毎年約700人が参加し、楽しく体を動かしています。参加や観覧をお待ちしています。

日時 10月5日 10時～
会場 荻野運動公園
内容 パン食い競走、鈴割り、玉入れなど
閩障がい福祉課 ☎25局2221

知っていますか？ 障害に関するマーク

聴覚障害者標識



聴覚障がい者が乗る自動車に表示されています。近くを走行する時は、割り込みや幅寄せをしないようにしましょう。

身体障害者補助犬



身体障がい者に寄り添い生活をサポートする盲導犬や聴導犬、介助犬を受け入れる施設などに表示されています。

国際シンボルマーク



障がい者が利用しやすい施設などを示す世界共通のマーク。国などの設置基準を満たした施設へ表示を推奨しています。

耳マーク



聞こえが不自由なことを表すマークです。大きな声で話したり、筆談したりするなどの配慮をしましょう。

みんなのトイレ



車いすの方などが使いやすいように作られたトイレ。県の「みんなのバリアフリー街づくり条例」で定められています。

身体障害者標識「四つ葉マーク」



身体障がい者が乗る自動車に表示されています。近くを走行する時は、割り込みや幅寄せをしないようにしましょう。

視覚障がい者のための国際シンボルマーク



信号機や国際点字郵便物、書籍などに使われるマークです。マークを見掛けたら、視覚障がい者への配慮をお願いします。

オストメイトマーク



人工肛門・ぼうこうをつけている方向けの設備があることを表します。トイレなどで見掛けたら配慮をお願いします。

点字ブロック

～安全な通行のために～

視覚障がい者が自分だけでも歩けるように、路上や施設などに設置されています。「線状ブロック」は進行方向を示し、「点状ブロック」は「止まれ」などの注意を表します。ブロックの上に物を置いたり、自転車を停めたりすることは危険です。



線状ブロック 点状ブロック

れた認知症予防。市内在住で65歳以上の方25人（要支援・介護認定者を除く）。無料。直接または電話、ハガキ、ファクスに教室名、〒住所、氏名、生年月日、電話番号を書き、9月17日(必着)までに〒243-8511 高齢福祉課 ☎225局2388・☎221局1640へ。抽選。ウェブ申 ☎130392

勤労者福祉サービスセンターの講座

■家計のダイエットセミナー

9月28日、10時～12時。思わぬ出費と家計負担に備える保障を見直す。市内在住在勤の20歳以上の方15人。無料。ウェブ申 ☎130365

■シャドーボックス教室

10月1・8・15日(全3回)、19時～21時。絵を切って重ねて貼る手工芸教室。市内在住在勤在学の18歳以上の方10人。参加費6000円(材料費含む)。ウェブ申 ☎130366

■骨盤力向上レッスン

10月9日、19時～21時。体のゆがみを整え、肩凝り・腰痛の改善方法を学ぶ。市内在住在勤の20歳以上の方15人。2000円。ウェブ申 ☎130383

いずれも会場は勤労福祉センター。申し込みは電話またはファクスに講座名、〒住所、氏名、年齢、電話番号を書き、9月17日までに勤労者福祉サービスセンター ☎225局2547・☎227局5405へ。抽選。

初心者・シニアテニス教室

10月4・11・18・25日(全4回)、9時30分～11時。南毛利スポーツセンター(温水西1-27-1)。初心者またはシニアの方30人。無料。未使用のボール2缶をお持ちください。往復ハガキに〒住所、氏名、性別、電話番号を書き、9月14日(必着)までに〒243-0122森の里4-5-16市ファミリーテニス協会事務局・座本 ☎248局7173へ。抽選。

体育協会のスポーツ教室

■第2回初心者弓道教室

10月3・7・10・17・21・24・28・31日(全8回)、13時～15時30分。東町スポーツセンター。基礎技術の講習。市内在住在勤在学の方20人(児童・生徒を除く)。3000円。ウェブ申 ☎130379

■初級・中級バドミントン教室

10月8・11・18・22・25日(全5回)、

19時～21時。南毛利スポーツセンター。基礎技術の講習。市内在住在勤在学の方30人(児童・生徒を除く)。2000円。ウェブ申 ☎130380

■初級・中級グラウンド・ゴルフ教室

10月12・19・26日(全3回)、9時30分～11時30分。南毛利スポーツセンター。基礎技術の講習。市内在住在勤在学の小学生以上の方30人。1000円。ウェブ申 ☎130381

■なぎなた体験教室

10月12・19・26日、11月9・16日(全5回)。10時～12時。東町スポーツセンター。基礎技術の講習。市内在住在勤在学の小学生以上の方20人。無料。ウェブ申 ☎130382

いずれも申し込みは、ハガキ、ファクスに教室名、〒住所、氏名(ふりがな)、年齢、電話番号を書き、9月15日(必着)までに〒243-0039温水西1-27-1体育協会 ☎247局7212・☎248局7151へ。抽選。

国民健康保険被保険者証の更新

10月の更新に伴い、9月7日から簡易書留で郵送します。保管期間満了で未受領の方は、9月26日以降に運転免許証などを持ち国保年金課で受け取るか、お問い合わせください。既に他の市区町村への転出や職場の健康保険に加入している場合などは、脱退の届け出をしてください。☎国保年金課 ☎225局2122。

市立病院職員募集

■看護師・助産師

《定期試験》9月29日、11月24日《随時試験》申込書に希望日を記入(既卒のみ)《対象》①助産師または看護師免許を有する②平成26年実施の助産師または看護師国家試験で免許を取得見込みのいずれかに該当する方50人。定年60歳。試験日の9日前(消印有効)まで。

■臨床検査技師(病理検査)、理学療法士

《試験日》10月6日《対象》昭和54年4月2日以降生まれで①臨床検査技師または理学療法士免許を有する②平成26年実施の臨床検査技師または理学療法士国家試験において免許を取得見込みのいずれかに該当する方各1人《採用》平成26年4月1日以降(予定)。9月27日(消印有効)まで。

いずれも市立病院や市役所本庁

あつぎ 元気Wave 9月の広報番組 ガイド 9月1日～15日 ◆心に響け！幸せを呼ぶ太鼓 白龍太鼓が被災地に届けた思いと活動の様子を紹介 ①12時～②19時30分～③22時45分～ ※内容は変更する場合があります。 番組はホームページ動画配信 あつぎ元気Wave 検索 CATV放送開始後に配信

舎、本厚木・愛甲石田駅連絡所にある申込書(市立病院ホームページからダウンロード可)を直接または郵送で期日までに〒243-8588水引1-16-36経営管理課 ☎221局1570へ。

緑を豊かにする審議会委員を募集

自然環境に関する事項を調査審議します。

《対象》①市内在住在勤在学で応募日現在18歳以上②昼間の会議(年1回程度)に出席できる③他の附属機関の委員でない④市の議員・職員でない⑤の全てを満たす方3人《任期》12月1日から2年間《報酬》1日7800円(交通費含む)。☎公園緑地課、市政情報コーナーにある申込書(市ホームページからダウンロード可)に必要事項を書き、直接または郵送、Eメールで

9月30日(消印有効)までに〒243-8511公園緑地課 ☎225局2412・e-mail = 4800@city.atsugi.kanagawa.jpへ。書類選考あり。

9月10日は「屋外広告の日」

屋外に設置されている広告物には、掲出位置や形状などのルールがあります。設置するには条例に基づく許可が必要です。ルールを守ってきれいなまちをつくりましょう。☎都市計画課 ☎225局2400。

9月10日は世界自殺予防デー

9月10日～16日は自殺予防週間です。うつ病など「こころの健康」が原因の自殺は、誰もが抱え得る深刻な問題です。早めに気付いて対応することが大切です。☎健康づくり課 ☎225局2201。

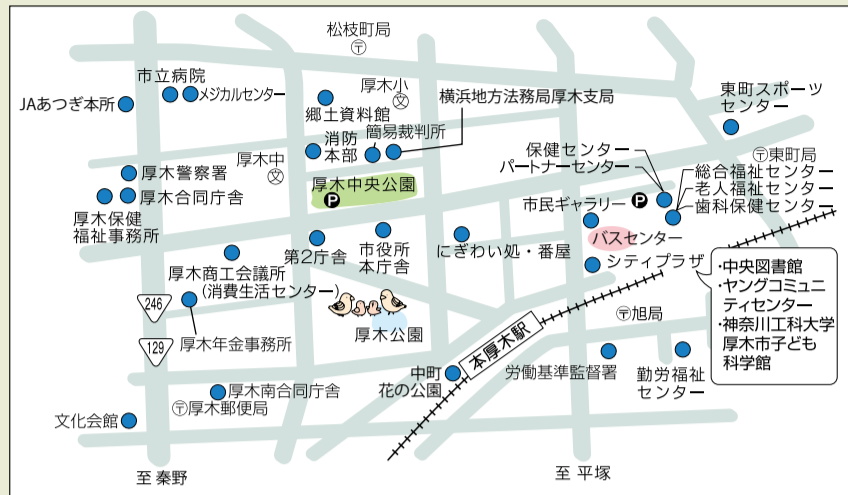
みんなの声で 市政をつくる まち 皆さんの声を市政に生かすため、意見交換会やパブリックコメントを実施します。 ●情報プラザ条例改正骨子 《閲覧期間》9月1日～30日。☎〒243-8511情報政策課 ☎225局2459・☎225局3732・e-mail = 1300@city.atsugi.kanagawa.jp ●(仮称)里地里山保全促進条例骨子 《閲覧期間》9月10日～10月10日。☎〒243-8511環境総務課 ☎225局2746・☎221局0291・e-mail = 3100@city.atsugi.kanagawa.jp 閲覧場所は、各課窓口、市政情報コーナー、公民館、本厚木・愛甲石田駅連絡所、総合福祉センター、中央図書館、パートナーセンター、ヤングコミュニティセンター、勤労者福祉サービスセンター、子育て支援センター、情報プラザ、市ホームページなど。応募資格は市内在住在勤在学の方または市内で活動する個人・法人・団体。応募は閲覧場所にある備え付けの箱に投函するか、直接または郵送、ファクス、Eメールで問い合わせ先へ。

市議会正副議長が決定 8月9日の市議会第1回臨時会で、議長に川口仁氏(公明党厚木市議員団)、副議長に越智一久氏(あつぎみらい)が選出されました。 議長 川口仁氏 副議長 越智一久氏 川口氏は、副議長をはじめ、議会運営委員会委員長、総務企画常任委員会委員長などを歴任。3期目。51歳。山際在住。 越智氏は、環境教育常任委員会委員長をはじめ、市民福祉常任委員会副委員長などを歴任。2期目。66歳。七沢在住。 ☎議会総務課 ☎225局2700

インターネットモニターからの意見を紹介 ホットメール Hot E Mail 8月1日号広報あつぎを読んで ◆子どもたちの笑顔とおいしそうな野菜が目をつけた/30代女性・寿町 ◆厚木市のメガソーラーを初めて知った/40代女性・林 ◆発電コストなどを考えると、大規模開発には疑問を感じる/60歳代男性・妻田西 ◆食物アレルギーのある子どもと保護者が安心できると思う/30代女性・栄町 ◆戦争経験者の実体験を知ることが重要なこと/40代女性・愛名 ◆ジャズナイトがあるのを知り、良い企画だと思った/30代女性・戸室 厚木市 インターネットモニター結果 検索

編集後記 白龍太鼓の被災地での活動に密着しました。公演を重ねていくに連れてメンバーの顔つきが変わり、太鼓の演奏に力強さが増していくのがよく分かりました。特に最終日の公演は圧巻。写真を撮りながら心から感動しました。子ども連の小中学生たちも貴重な経験を積み、大きく成長を遂げたようです。先人たちから受け継いだ伝統に加え、自らの経験で得た思いを胸に、彼らが今後の白龍太鼓をけん引していくのでしょうか。(猪岡)

タウンガイド



9月							10月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7	6	7	8	9	10	11	12
8	9	10	11	12	13	14	13	14	15	16	17	18	19
15	16	17	18	19	20	21	20	21	22	23	24	25	26
22	23	24	25	26	27	28	27	28	29	30	31		
29	30												

マイタウンクラブ

印の番号でウェブ上からも、詳しい情報をご覧いただけます。「ウェブ申」と記されたものは、ウェブ上から申し込みができます。

<http://www.mytownclub.com>
[携帯電話は末尾に/cpを]

インターナショナルティーサロン

9月8日、14時～16時。パートナーセンター。外国籍市民との交流会。外国籍市民のスピーチ発表会も実施。茶菓子1品持ち寄り(または100円)。④当日直接会場へ。⑤人権男女参画課 ☎225局2215。⑥230005

わくわくおでかけひろば

①9月19日、10時30分～11時30分。岡田児童館(岡田5-9-1) ②10月18日、10時30分～11時30分。妻田児童館(妻田西1-17-33)。手遊びや手工芸品作り。未就学児と保護者。無料。④当日直接会場へ。⑤青少年課 ☎225局2580。

市民ふれあいマーケット

9月8日(雨天の場合は15日)、10時～14時。厚木中央公園。日用雑貨や衣料品などの不用品を130店舗が販売。古本市も同時開催。⑤環境総務課 ☎225局2780。

児童館工作作品展

9月12日～10月9日、9時～22時。ヤングコミュニティセンター。子どもたちの作品展示や児童館の紹介。

無料。④当日直接会場へ。⑤青少年課 ☎225局2581。

9月青春劇場スケジュール

7日＝唄う！青春劇場カラオケ大会(ゲスト・立花伸一)。17時～18時。厚木商工会議所。定員100人。入場料1000円。14日＝青春のパフォーマンス。14時～15時。湘北短期大学(温水428)。定員100人。無料。28日＝あつぎ青春劇場落語会(出演・立川志の春)。11時～12時30分。ヤングコミュニティセンター。定員100人。入場料500円。⑤商業にぎわい課 ☎225局2840。

第4回市民活動ボランティア見本市

9月15日、10時～15時。勤労福祉センター。市内のボランティア団体が展示や実演などで活動を紹介します。⑤市民協働推進課 ☎225局2141。

飯山観音・白山・順礼峠を巡るハイキング

9月19日、8時30分～14時30分(雨天中止)。「飯山観音前」バス停集合。飯山観音～七沢(約4km)を歩く。定員20人。300円(資料代、保険料)。弁当、飲み物、運動靴、

雨具をお持ちください。④9月15日までに東丹沢七沢観光案内所 ☎248局1102へ。申し込み順。

防火管理資格取得等講習(甲種・乙種)

10月17・18日(全2回)、9時～17時。荻野運動公園(中荻野1500)。市内在住在勤の方96人。4300円(テキスト代・返金不可) ④6カ月以内に撮影した縦4cm×横3cmの無背景、無帽、正面、上半身の写真の裏面に氏名を書き、申込書を添えて9月17日～20日に直接予防課 ☎223局9370へ。申し込み順。

平成25年度中期労働講座

10月1・8・11・15・17・23・25・29日(全8回)、18時30分～20時30分。勤労福祉センター。労働法の基礎を学ぶ。定員40人。3800円。④9月24日までにかながわ労働センター県央支所 ☎296局7311・☎222局5375へ。申し込み順。

「さかなクン」講演会

10月14日、13時30分～15時。文化会館。テレビなどでおなじみのさかなクンによる講演。「動物フェスティバル神奈川2013 in あつぎ」の中で実施。県内在住の小学生以下の子どもと保護者1400人。④往復ハガキに参加者全員(3人まで)の〒住所、氏名、年齢、電話番号を書き、9月17日(消印有効)までに〒243-8511生活環境課 ☎225局2750へ。抽選。

親子deフィットネス

9月29日、10時～11時30分。パートナーセンター。幼児期の運動・成長発達の講義、運動・遊びの実践。市内在住の3歳6カ月～5歳未満の子どもと父親(母親も可)。定員20組。④9月2日から健康づくり課 ☎225局2201へ。申し込み順。⑥130367

健康スイミング秋期 高齢者・障がい者教室

④高齢者健康づくり教室(全コース8回) 《対象》市内在住の60歳以上で自力でプールに入れる方。Aコース(初心者)＝9月24日～11月12日の火曜、11時30分～12時30分。Bコース(息継ぎができない方)＝9月24日～11月12日の火曜、10

時～11時。Cコース(クロールができる方)＝9月26日～11月14日の木曜、14時～15時。Dコース(15歳以上泳げる方)＝9月24日～11月12日の火曜、14時～15時。ウォーキング＝①9月25日～11月13日の水曜、15時30分～16時30分②9月27日～11月15日の金曜、14時～15時。アクアビクス＝9月24日～11月12日の火曜、15時30分～16時30分。

障がい者教室(全コース8回)

《対象》市内在住で障害者手帳を持つかそれと同等の18歳以上の方。Eコース(介助が必要ない方)＝①9月25日～11月13日の水曜、14時～15時②9月26日～11月14日の水曜、11時30分～12時30分。Fコース(介助者の同伴が必要な方)＝9月25日～11月13日の水曜、11時～12時。いずれも会場は、総合福祉センター水浴訓練室。申し込みは9月3日～7日の9時～17時に直接総合福祉センター6階水浴訓練室 ☎225局2968へ(新規利用の方は本人確認できるものが必要)。抽選。

あつぎ地域SNS体験講座

10月12日、13時40分～15時50分。情報プラザ(岡田3050)。「あつぎ地域SNS」でブログの投稿と閲覧を体験。マウス操作・文字入力などができる16歳以上の方16人。無料。④電話またはハガキ、ファクスに〒住所、氏名(ふりがな)、電話番号を書き、9月23日(消印有効)までに〒243-8511情報政策課 ☎225局2459・☎225局3732へ。抽選。ウェブ申 ☎600160

緑の講座

10月3・10・17・24日(全4回)、10時～11時30分。ほうさいの丘公園(温水783-1)。果樹の育て方や土作りなどを学ぶ。市内在住の方80人。無料。④ハガキに〒住所、氏名(ふりがな)、電話番号を書き、9月17日(必着)までに〒243-0036長谷626-1環境みどり公社 ☎225局2774へ。抽選。ウェブ申 ☎130348

物忘れ予防・脳いきいき教室「おでかけプログラム」

10月2日～11月27日の水曜(全8回)、14時～16時。総合福祉センターなど。ウォーキングを取り入

あつぎハロウィーン2013



昨年好評だった「あつぎハロウィーン」をこどもも開催。本厚木駅周辺をハロウィーン一色に染めましょう。



日時 10月26日 13時～18時

※雨天の場合、パレードは中止

対象 ハロウィーンの仮装をした方①1000人②500人。

内容 ①パレード＝ハロウィーンの仮装で、あゆちゃん和厚木一番街をパレード。無料。

②ハロウィーンラリー＝仮装して本厚木駅周辺の協力店に行き、合言葉を

④いずれもEメールに代表者の〒住所、氏名、電話番号、参加者人数・年齢、催し名(両方でも可)を書き、9月30日までに商業にぎわい課e-mail=nigiwai-dokoro@city.atsugi.kanagawa.jpへ。抽選。

⑤商業にぎわい課 ☎225局2840



平成25年度下半期 インターネットモニター募集

「広報あつぎ」などについて意見を寄せるモニターを募集します。寄せられた回答は、今後の事業に生かされます。

《対象》市内在住在勤在学の18歳以上で、電子メールを送受信できる方

《期間》10月～平成26年3月(毎月2回)

《謝礼》回答実績に応じ、図書カードを進呈

④9月23日までにEメールに〒住所、氏名、生年月日、電話番号、メールアドレスを書き、e-mail=0200@city.atsugi.kanagawa.jpへ。公募 ☎330016

⑤広報課 ☎225局2043





9月9日は
救急の日

命をつなぐ救急隊



出動日数 365日
出動件数 1万201件
(平成24年1月~12月)

「救急車が通ります。進路を譲ってください」。サイレンを響かせ、救急車が出動します。車内には緊張した空気が張り詰めます。救急車の出動件数は、昨年初めて1万件を突破。56人の救急隊員たちが交替で、24時間365日任務に当たっています。

「一つとして同じ現場はない。常に緊張感を持っている」。救急隊士の森久保隊員(40)は、そう話します。通報時の情報を基に、対応方法や最善の処置などを頭の中に巡らせて現場に急行します。「病院へ搬送した方が元気がなくなったと聞けば、疲れも吹き飛ばすと、森久保隊員は話します。

市では4月、さらなる救命率の向上を目指し、医師が救急車に乗する「派遣型救急ワークステーション」を導入。8月1日現在65



派遣型救急ワークステーション
医師の同乗 65件
早い医療処置が可能に

件出動し、薬剤投与などの医療処置を30件実施しました。

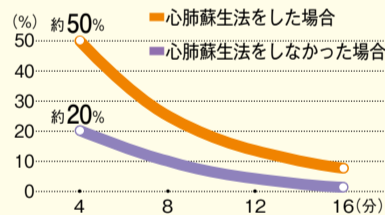
命を救う第一歩は、心肺蘇生法などの応急手当です(下参照)。救急隊が到着するまで、平均約8分。通報者などの応急手当で救急隊が連携する「救命の連鎖」が重要です。

9月9日は「救急の日」。一人一人が協力し合い、安心して暮らせるまちにしていきたいでしょう。

岡救急救命課 223局9365

命を救う第一歩 応急手当

[心肺停止後の救命率の推移]



心肺停止した人の救命率は、応急手当の有無で大きく変わります(左表参照)。市では、応急手当などの講習会を実施。これまで約8千人が受講しています。日程は「広報あつぎ」などでお知らせします。

お持ちですか? 救急安心カード

救急安心カードは、氏名、生年月日、血液型、かかりつけの病院などを書いておくカードです。いざという時に救急隊員が迅速・的確に救急医療活動ができます。《配布場所》公民館、市政情報コーナーなど。



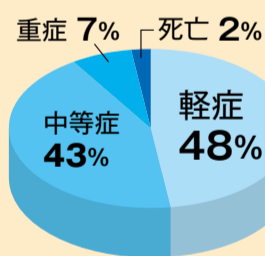
多くの方の命を守るため

救急車の適正な利用を



平成24年の搬送人員数9508人のうち、入院の必要がない「軽症」だったのは48%の4564人でした。本当に救急車が必要な方のために適正な利用をお願いします。判断に迷うときは、「あつぎ健康相談ダイヤル24」をご利用ください。

[傷病程度別搬送割合]



あつぎ健康相談ダイヤル24

携帯・PHSもOK

医療機関情報などにも24時間無料でお答えします。

フリーダイヤル さわやか1番 よいこころ

0120-31-4156

